



学芸員が思いのままにつづる、ミュージアムのこと、日々の仕事のこと。展示に直接携わる学芸員の言葉の中から、ミュージアムをもっと楽しむヒントを見つけてください。

CHAPTER 2 仙台市縄文の森広場
学芸員 佐藤祐輔さん



縄文の森広場は、体験学習の対応が仕事の中心になります。平日なら市内の学校や県外の修学旅行生、休日なら一般のお客さんの対応がほとんどです。特に4月～6月にかけては、一息つく暇もないほど多くのお客さんに来ていただいています(ありがたいことです)。

自分が勉強してきた大好きなこと(考古学)を、来館者に伝えられること自体とっても楽しいことで、お客さんから「勉強になりました!」「楽しかったです!」の声を聞くことができれば、日々の疲れも吹き飛んでいくものです。

とは言いつつも、ほかの仕事に集中できなくて、あっふあっふになってしまうこともあります…。そんな時は、「石器づくり」でリフレッシュです。石器づくりは、自転車の運転と違って、練習を怠ると日々腕が鈍っていきます…。色んなところで実演をして、石器づくりの魅力や面白さを伝えていけるので、いざという時に上手くできない、なんてことがないように、時間を見つけては体験・展示用に使ういろんな石器をつくっています。うまくできた時の充実感は、次の日の仕事の活力にもなるんです。

失敗したときはその逆ですけどね(笑)。



考古学の楽しさ、魅力をこれからも伝えていきます!

これからのイベント 8/5(土)～7月「つくて!縄文～夏休み特別イベント～」10:00～15:00(12:00～13:00は休止)
7/15(土)～10/22(日) コーナー展示「仙山交流in高島一押出遺跡と出土遺物」



SMMAとは 知的情報資源である仙台・宮城地域のさまざまな博物館が協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを集積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指します。

WEBサイト 見験楽学 仙台・宮城ミュージアム情報局

SMMA参加館の学芸員をはじめ現場スタッフによるとっておきの情報や、地域のミュージアムならではの情報をお伝えします。地元のみならず、旅行で訪れた方々にもおおいに役立ち、楽しみながら発見や体験をしていただけるウェブサイトです。

www.smma.jp



発行・問い合わせ先: 仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)
電話: 022-713-4483 ファックス: 022-713-4482 電子メール: office@smt.city.sendai.jp ウェブサイト: https://www.smma.jp
編集/小原 瞳 デザイン/ANTWORKS イラスト/よしだみさこ 発行日/2017年7月21日 掲載の記事・情報は発行日の段階のもです。この紙はリサイクルできます

便学楽見の句



ミュージアム de ブレイクタイム

ミュージアム見学とあわせて楽しみたい、周辺のおすすめスポットをご紹介します。

SPOT せんだい3.11メモリアル交流館

常設展や企画展で東日本大震災の記録や東部沿岸地域の暮らし・記憶を今に伝える施設。



図 仙台市若林区荒井字形85-4 地下鉄東西線荒井駅舎内
☎ 022-390-9022 図 10:00～17:00
☎ 月曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌平日 図 見学無料

休憩スポット



自由に入出りできる3階の屋上庭園はラベンダーの香りに包まれながらのんびり休憩できる場所。「THE BREAD BAR」で購入したパンやスイーツを片手にひと休みがおすすめです。

THE BREAD BAR

天然液体酵母を使用して焼き上げる、小麦本来の香りや旨みはずっしりと感じられる味わい深いパンが並ぶ小さなお店。カンパニユやバゲットなどのハード系はじめ、同じビルの「もろやファームキッチン」の農園から届く朝採野菜を使った総菜パンが並びます。



▲もろやの新鮮な野菜を練りこんだチャパタ(200円)

◀低温でじっくり発酵させ、一晚熟成させて焼き上げるバゲット(250円)

もろやファームキッチン

“畑の一年を伝える”をコンセプトに、自家栽培の野菜をメインに使った食事が味わえる農家レストラン。日替わりランチやキーマカレー、大豆パスタなど、どれもヘルシーで滋味たっぷり。店内では採れたての新鮮な野菜も販売しています。



▲旬野菜のランチコース(1600円)一例 前日までに要予約。

図 仙台市若林区荒井字東87-2 ヤマカビル2F
☎ 022-288-6476
☎ ランチタイム11:00～15:00(14:00L.O.)、カフェタイム15:00～17:00
☎ 月曜、第1・3・5日曜



井上ひさし (1934-2010)

昭和9(1934)年山形県生まれ。上智大学外国語学部フランス語科在学中から台本を書き始め、卒業後から放送作家として活動。絶大な人気を誇った『ひょこりひょたん島』を手がけた後、戯曲や小説、随筆の執筆に活動範囲を広げ、直木賞や岸田戯曲賞など数々の賞を受賞する。昭和59(1984)年「劇団こまつ座」を旗揚げ。海外からも高い評価を得る作品を多数執筆した。



◀井上ひさし 座右の銘

SMMA参加館ゆかりの人物にせまります。人を知って、收藏品をもっと身近に、もっと楽しく。

仙台ゆかりの作家として 仙台文学館初代館長を9年歴任

中学3年生の時に家庭の事情で仙台の養護施設「光ヶ丘天使園」(現ラサール・ホーム)に身を寄せ、仙台第一高等学校卒業までの3年半を仙台で過ごした井上ひさし。“仙台で人間としての栄養をもらった”とみづから回想するように、仙台を大切な場所と位置づけていました。その縁あって平成10年4月に仙台文学館の初代館長に就任。翌年3月の開館後は、多忙な中でも来館して講演会や文章講座、戯曲講座を行うなど精力的に活動し、地方の文学館を全国に発信する大きな原動力となりました。

学芸員の印象に残る初代館長のエピソード

「文学館での打ち合わせ時に、『私の歯形をかたどった栓抜きグッズはどうですか?』とか『動く展示として、その場で原稿を書いて、販売したらおもしろいんじゃないか』などと笑いながら冗談まじりに提案してくれました」と語るのは学芸室長の赤間亜生さん。一方で10周年のイベントで実施した井上作品のリーディングでは、出演者に「今日はたくさんのお客さんがいるけど、明日は一人かもしれない。それでも今日と変わらず、ベストを尽くしてください」と伝えたことも。作家・井上ひさしが歩んできた長い道のりを思わせる言葉として、赤間さんはとても印象に残っているそう。現場を愛し、人を喜ばせたいという初代館長の言葉や思いは、今でも文学館に息づいています。



▲トレードマークの眼鏡や万年筆を展示



▲『青葉繁れる』のプロット

仙台文学館 図 仙台市青葉区北根2-7-1
☎ 022-271-3020 図 9:00～17:00(展示室入室は16:30まで)
☎ 月曜(祝日の場合は開館)、休日の翌平日、1～11月の第4木曜
☎ 一般460円、高校生230円、小・中学生110円

仙台文学館の 7月15日(土)～8月27日(日) からのイベント とよたかずひこ絵本の世界